

令和元年度 滝川市道徳教育推進事業 実践報告書

「自己と他者の心を見つめる 道徳科の授業の在り方」

～考え、議論する学習過程を通して～



滝川市教育委員会

滝川市道徳教育研究会議

発 刊 に あ た っ て

小学校においては平成30年度から、中学校においては令和元年度から「特別の教科 道徳（道徳科）」が全面実施を迎えております。

各学校の道徳科の授業においては、従前の道徳の時間の課題改善に向けた授業の質的転換が求められているところです。その学習指導改善の視点として道徳科では「考え、議論する道徳」と示され、それは、道徳科の目標の中にある「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の（人間としての※中学校）生き方についての考えを深める学習」と大きな関連があると捉えることができます。この一連の学習活動は、道徳性を養うためにも欠かせないものであり、全ての道徳科の授業で、このような学習活動を行うためにも、先生方には、より効果的な学習指導過程や指導法を工夫していくことが求められます。

本市においては、子どもたちの豊かな心の育成を図るため、平成19年度から2年間は文部科学省の指定を受け、平成21年度からは、市独自に「道徳教育推進事業」を立ち上げて実践的な研究を推進してきたところです。

昨年度からは、これまでの研究成果を引き続き「深める、広げる」とともに本市の道徳教育の一層の充実を図るため、3か年計画で、道徳教育の要となる「道徳科の授業」に係る実践研究を推進してまいりました。今年度は7回の研究会議、そして実践発表会を開催し、各学校から選出された道徳教育研究員による理論研究を基盤として3校において研究授業を行いました。研究授業の中では、子どもたちが道徳的価値を自分ごととして考え、他者と議論することを通して自己の生き方についての考えを深める姿を見ることができました。

本報告書には、研究主題に基づいた研究理論・授業実践等、研究の取組の成果が掲載されております。各学校において本書が有効に活用され、子どもたちに、自己の生き方について自分なりの考えをもち、主体的に行動しようとする心が一層醸成されることを願っております。

終わりになりますが、本研究事業の推進にあたり、ご協力いただきました研究員の先生方、関係各位に心からお礼を申しあげ、発刊にあたってのご挨拶といたします。

目 次

発刊にあたって

第1章 研究概要

I. 研究主題及び主題設定の理由	2
II. 目指す子ども像	2
III. 研究仮説	2
IV. 研究内容	3
V. 研究の全体構造図	4
VI. 事業及び研究の進め方	5
VII. 研究推進の経過	6
VIII. 令和元年度 滝川市道徳教育研究会議 名簿	7

第2章 研究理論

I. 児童生徒の思考を深める発問の工夫	9
II. 言語活動の充実を図る指導方法の工夫	13
III. 保護者や地域の方などの支援を得た指導の工夫	16

第3章 令和元年度授業実践

・滝川市立滝川第一小学校 春田 大介 教諭	19
・滝川市立東小学校 伊林 大介 教諭	25
・滝川市立明苑中学校 地原 美紗登 教諭	30
・各授業実践の反省 ～各研究協議より～	35

第4章 成果と課題

・令和元年度 滝川市道徳教育推進事業 研究の成果と課題	42
-----------------------------	----

参考・引用文献	51
---------	----

第 1 章

研究概要

I 研究主題及び主題設定の理由

1 研究主題

「自己と他者の心を見つめる道徳科の授業の在り方」

～考え、議論する学習過程を通して～

2 研究主題設定の理由

平成29年3月に告示された新学習指導要領において、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等、社会が加速度的に変化する新しい時代に求められる資質・能力を育むため、「社会に開かれた教育課程」の実現が示された。よりよい学校教育を通して、よりよい社会をつくるという理念のもとに、学校教育と社会教育のより密接な関わりが求められている。大きく変化し続け、予測困難な社会において、学校、家庭、地域が連携・協働して、社会総がかりで子どもを育成する仕組みづくりが重要である。

そうした中、児童生徒に生命を大切にすることや思いやりの心、倫理観や規範意識など、人間としての在り方や生き方の礎となる道徳的価値を理解させ、豊かな人間性や社会性をはぐくむ道徳教育を充実することが求められている。

とりわけ、これからの時代に、多様な人々と協働して生きる児童生徒にとって、様々な視点から他者や物事を理解し、主体的に判断し、行動することができるようになることが求められる。そのような資質・能力を身に付けることで、身のまわりの人、集団そして社会とのかかわりを大切に、望ましい人間関係の育成を図ることができると考えられる。

児童生徒に、自立した人間として他者とともによりよく生きようとする心をはぐくむためには、生きていることの素晴らしさや喜びを味わわせ、生きがいをもたせるとともに、その在り方について主体的に自分との関わりで考え、多様な考え方や感じ方と出会い交流する体験などを通して、そのよさや意義、困難さ、多様さなどの理解を深める必要がある。

これらのことから、本研究では、研究主題を「自己と他者の心を見つめる道徳科の授業の在り方」と設定し、児童生徒が道徳的価値を自分ごととして考え、他者と議論することを通して自己の生き方についての考えを深めていくことができる道徳科授業の姿について研究することとした。

II 目指す子ども像

本研究では、児童生徒に、①自己の生き方について自分なりの考えをもち、主体的に判断し、行動しようとする心 ②他者を思いやり、他者との関係を大切にしようとする心を育成する観点から目指す子ども像を、

「自己の生き方についての考えを深め、他者とよりよい関係を築きながら行動しようとする子ども」

と設定する。

III 研究仮説

上記の「目指す子ども像」を踏まえ、研究仮説を次のように設定した。

「道徳科の授業」において、道徳的価値の内面化を図らせながら、他者との関わりを通じて多様な見方・考えに気づかせる指導の工夫を講じるとともに、保護者や地域住民等の支援を得た指導を充実させることにより、児童生徒に自己の生き方についての考えを深め、他者とよりよい関係を築きながら行動しようとする心をはぐくむことができるであろう。

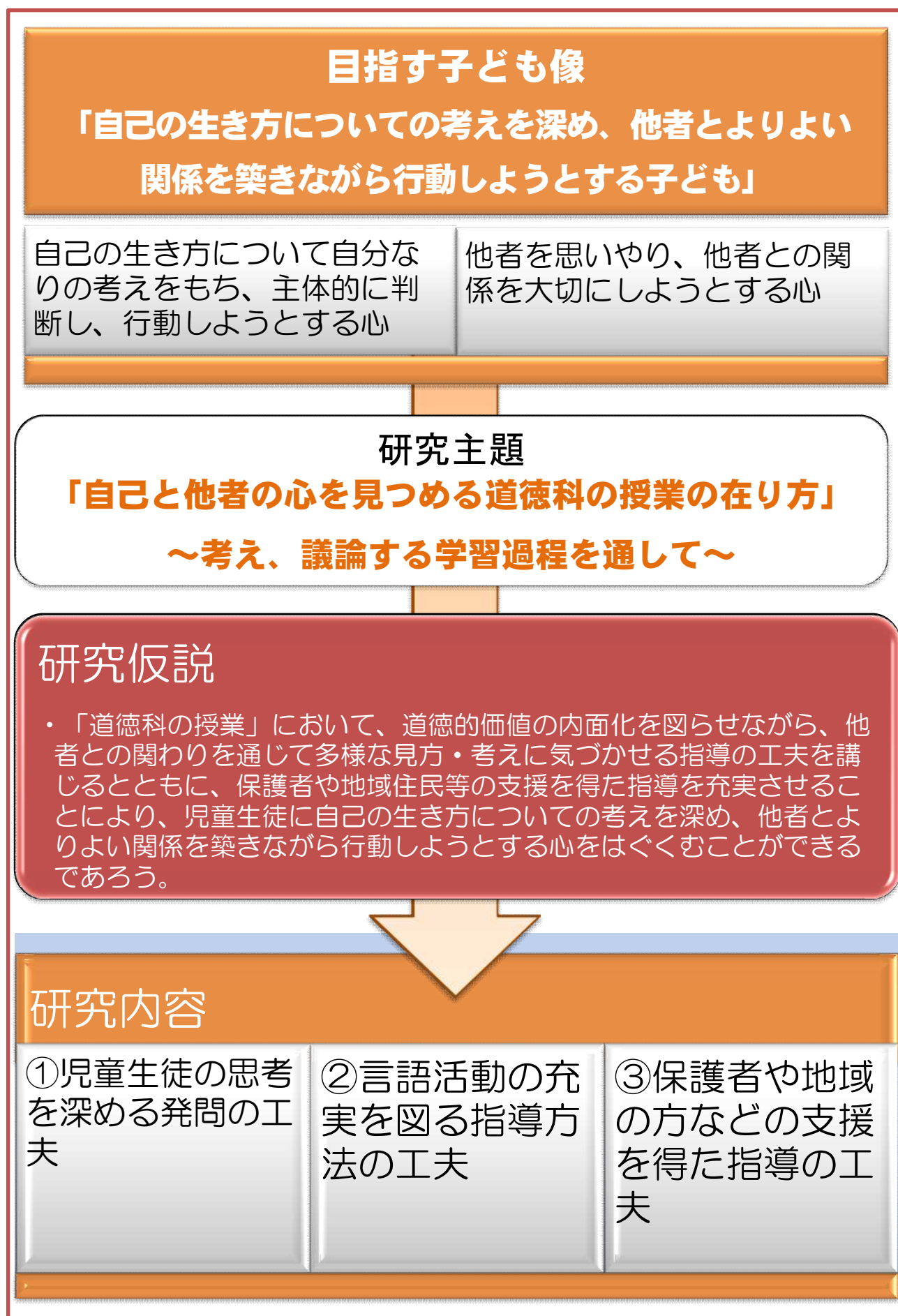
Ⅳ 研究内容

児童生徒に「自己の生き方についての考えを深め、他者とよりよい関係を築きながら行動しようとする心」をはぐくむためには、道徳教育の要となる道徳科の授業において児童生徒が他者との関わりを通して、道徳的価値を自分ごととして捉えながら思考する学習活動を展開することが必要である。

そのためには、児童生徒の思考を深めたり、広げたりする指導過程の充実を図るとともに、児童生徒・教員・保護者そして地域の方との関わりや体験活動を意図的・計画的に教育活動に位置づけることが大切である。

そこで、研究の対象を「道徳科の授業」とし、研究内容を次のように設定した。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">① 児童生徒の思考を深める発問の工夫② 言語活動の充実を図る指導方法の工夫③ 保護者・地域の方などの支援を得た指導の工夫 |
|--|



Ⅵ 事業及び研究の進め方

1 事業名

滝川市道徳教育推進事業（平成30年度～令和2年度） ※3か年研究2年次

2 事業のねらい

本市が推進してきた「児童生徒の心に響く道徳教育推進事業（平成19～20年度）」・「滝川市道徳教育推進事業（平成21～30年度）」の成果を「広げる・深める」ことを通して、本市における道徳教育の更なる充実に資することをねらいとする。

（1）道徳科授業の質の向上

- ・「道徳科」の授業実践の充実（アンケートの活用・効果的な発問の在り方）
- ・自己の生き方についての自覚を深める指導の工夫
- ・教材の効果的活用（「はーとふる」「きたものがたり」を含む）
- ・言語活動の充実が図られる指導過程の工夫（「書く活動」と「話す活動」に関わるねらい・目的の明確化）

（2）家庭・地域と連携した道徳教育の推進

- ・保護者と連携した「子どもの心を耕す」取組の充実
- ・地域の教育力を積極的に活用した道徳教育の充実

（3）研究成果の還流・発信

- ・実践発表会の実施
- ・実践資料の各学校への配布（冊子版・DVD版）と滝川市教育委員会 HP 掲載による道徳科授業の実践内容に係る保護者や地域に向けた発信

3 事業及び研究の進め方

（1）滝川市道徳教育研究会議の設置

本事業における研究を推進するために、「滝川市道徳教育研究会議」（以下、研究会議）を設置する。

（2）研究会議は、市内小・中学校教員10名（小学校6名、中学校4名）と事務局（教育委員会職員）により構成される「滝川市道徳教育研究会議」を設置し、研究を推進する。

（3）研究会議の活動

- ①道徳科に係る理論研究を行う。
- ②授業実践を通して研究仮説の検証を図る。
- ③3年間で10校の研究授業を実施する。
※平成30年度：3校、令和元年度：3校、令和2年度：4校
- ④実践発表会を開催して研究成果を還流・発信する。また、実践資料を作成し、各学校に配布するとともに、滝川市教育委員会HPにも掲載する。
- ⑤多様な教材を用いて（「はーとふる」「きたものがたり」等を含む）ねらいを達成するための効果的な指導の在り方を検証する。
- （⑥道徳の特別教科化に向けた準備作業を進める。）

4 令和元年度研究推進の重点（※30年度の成果と課題より）

（1）『考え、議論する道徳』の姿を明らかにする「発問の在り方」の検討

- ・児童生徒が道徳的価値を自分ごととして主体的に思考することを促す発問の在り方
- ・児童生徒に道徳的価値について積極的な交流を促す発問の在り方

（2）言語活動の充実を図る指導過程や指導方法の工夫

- ・「書く活動」と「話す活動」のねらい・目的の明確化や時間配分
- ・思考の変容をたどっていけるようなワークシート作成・使用など、「書く活動」を通した授業内容の深化を図る工夫
- ・「話す活動」における形態（ペア、小グループなど）、手法（KJ法、ジグソー法など）の検証

(3) 学校、家庭、地域連携の要となる「特別の教科 道徳」の充実

- ・「学級通信」や「教科書」、「きたものがたり」等を活用した双方向の情報・意見交流
- ・市内の教員への研究成果の還元
- ・外部講師となり得る人材のリスト化

※(4) 道徳の特別教科化に向けた準備作業

- ・個の学びの質を見とる評価について

5 児童生徒の変容を把握するための手だて

- ・滝川市道徳教育研究会議作成「道徳アンケート」の授業前後実施
- ・計画的な児童生徒の観察 ・各校の自己点検、自己評価 ・感想文、ワークシート
- ・児童生徒に対するアンケート ・保護者へのアンケート
- ・自校内はもとより、学校間、校種間を超えた教師の話し合い など

6 本事業における道徳科の授業公開の実施計画

(1) 研究会議による公開授業研究

各研究員が研究理論に基づき公開研究授業を行うことで、研究主題の具現化を図る。

(2) コスモスデー地域一斉参観日における道徳科の授業公開

期 日：令和元年10月25日（金） 滝川市地域一斉参観日

市民に向け、市の広報で地域一斉参観日の開催を知らせ、広く授業を公開する。

7 その他

本研究では、小学校、中学校における「特別の教科 道徳」の実施に伴う情報の提供を行う。

VII 研究推進の経過

- ・第1回研究会議（令和元年 5月14日） 研究会議結成、推進計画
- ・第2回研究会議（令和元年 6月 6日） 理論研究、アンケート及び指導案、全体計画
- ・第3回研究会議（令和元年 8月21日） 指導案検討
- ・第4回研究会議（令和元年 9月18日） 授業公開及び協議（滝川第一小）
指導案検討
- ・第5回研究会議（令和元年11月 6日） 授業公開及び協議（明苑中）
指導案検討
- ・コスモスデー地域一斉参観日 各校における道徳科の授業公開
- ・第6回研究会議（令和元年12月19日） 授業公開及び協議（東小）
- ・第7回研究会議（令和2年 1月23日） 研究のまとめ、実践発表会に向けて
- ・第8回研究会議（令和2年 2月20日） 実践発表会
- ・「令和元年度実践報告書」の発刊（令和2年3月末）

Ⅷ 令和元年度 滝川市道徳教育研究会議 名簿

<研究員>

滝川第一小学校	春田 大介	東小学校	伊林 大介
滝川第二小学校	光明 泰史	江陵中学校	藤田 哲也
滝川第三小学校	田中 圭輔	明苑中学校	地原美紗登
西小学校	東藤 拓	開西中学校	富樫 雅美
江部乙小学校	小黒 俊浩	江部乙中学校	高嶋裕美子

<運営者>

滝川市教育委員会	教育部指導参事	廣 瀬 一 仁
滝川市教育委員会	教育総務課主査	佐 藤 憲 弘
滝川市教育委員会	教育総務課事務補	阿 部 桃 子

第2章

研究理論

I. 児童生徒の思考を深める発問の工夫

1. 児童生徒の思考を深める発問の工夫

児童生徒に自己の生き方についての考えを深め、他者とよりよい関係を築きながら行動する心をはぐくむためには、道徳科の授業において児童生徒が他者との関わりを通して、道徳的価値を自分ごととして捉えながら思考する学習活動を展開することが大切である。そうした学習活動を促す上で、「発問」の質は欠かせない要素といえる。

「発問」の質については、前3か年研究においても指導案検討や授業反省の際に研究員の間で議論となっており、特に研究最終年次となる平成29年度には、授業のねらいと児童生徒の実態を踏まえた「発問」について、指導案検討段階で協議を深めてきた。公開された4本の研究授業では、それぞれ児童生徒がねらいとする道徳的価値について自分なりの考えをもち、他者と交流する活動を通して新たな見方や考え方に気づき、それを自分のこれからに結び付けて考えていく実践が行われた。その一方で、子どもの思考を深める発問の一定の「型」について、これまでの実践を整理する必要があるという課題も残された。

そのことを踏まえ、昨年度から「児童生徒の思考を深める発問」の在り方について研究を進めることとした。

(1) 学習指導過程の特質に応じた発問の工夫

児童生徒の道徳的価値の理解を基に、道徳性を養うためには、教材の道徳的価値を自らの生き方と関連づけて、考えさせることが必要である。そのためには、学習指導過程の特質を踏まえた教材の活用と合わせた発問の工夫が大切である。

導 入

<ねらいとする道徳的価値への方向付けの段階>

- ・道徳的価値に意識を向ける。
- ・主題に対する興味や関心を高める。
- ・学習に向かう雰囲気をつくる。

【 留 意 点 】

- ・道徳的価値が自分とかわりがあるという意識をもたせる。
- ・考えるための視点をもたせる。

○教材提示の工夫

- ・アンケート調査の結果の提示
- ・絵画、写真、実物
- ・音声や音楽
- ・新聞記事や作文、詩
- ・地域素材、実験観察 等

- ・興味、関心を喚起させる発問
- ・資料に関する発問や説明
- ・体験を振り返らせる発問
- ・自分を振り返らせる発問 など

展 開

＜中心的な教材によって道徳的価値についての自覚を深める段階＞

- ・教材の中の登場人物を通して、道徳的価値を追求し、把握する。
- ・多様な考え方、感じ方に出会う。
- ・自分の生活、生き方、在り方を振り返る。

【 留 意 点 】

- ・多様な考え方、感じ方を引き出すための発問を行う。
- ・登場人物に同化させ、自分の考え方や感じ方を表現できるようにする。
- ・自分自身を自覚させるようにする。

○教材提示の工夫

- ・読み物教材の読み聞かせ
(スライド等での提示)
- ・教材の分割提示
- ・教材の繰り返し提示
- ・VTRの活用 など

○思考を深める工夫

- ・自分の考えを書く活動
- ・ペアでの対話
- ・小集団での話し合い
- ・座席配置の工夫
- ・スムーズな思考を促す板書の工夫 など

- ・教材中の事実や場面、状況を問う発問 ・登場人物や場面についての感想、判断、意見などを問う発問
- ・児童生徒の発言や反応を生かした発問 ・思考に揺さぶりをかける発問 ・人物の心情に迫る発問 など



【R元年度実践例】

滝川第一小学校

「メーター」(左の写真の枠内)の活用により、児童が自らの意識や立ち位置の可視化が図られた。



【R元年度実践例】

明苑中学校

教材を事前に読ませ、授業ではスライドにより内容の確認をした。このことが、話し合いの時間が確保されただけでなく、話し合いの内容も焦点化することができた。

終 末

＜ねらいとする道徳的価値に対する考えや思いをまとめたり、今後につないだりする段階＞

- ・道徳的価値を確かめ、整理し、まとめる。

○終末の工夫

- ・感想の発表
- ・教師の説話
- ・書く活動
- ・補助教材の提示
- など

【 留 意 点 】

- ・望ましい行為への決意表明などは行わないようにする。
- ・児童一人一人が、自らの道徳的な成長や明日への課題などを実感でき確かめることができるような工夫が必要である。

- ・今日の授業についての感想を問う発問
- ・自己の変容や気づきについて問う発問
- ・実践への意欲化を図る発問
- など

【R元年度実践例】

東小学校

「ワールドカフェ」の活用により、自分とは異なる考えや最も印象を受けた考えを選択し、その考えをみんなの前で発表した。



(2)「展開」における教材の魅力を引き出す発問の工夫

展開において、児童生徒の思考に揺さぶりをかけたり、人物の心情に迫らせ、教材に含まれている道徳的価値に気づかせたりするためには、教師の発問が重要であり、次の点に留意して発問を構成することが大切である。

- ① 教材に回答が記述してあることを聞くだけの発問構成をさける。中心発問はねらいとする道徳的価値について考える切り口に関わるものとして設定する。
- ② 行動の仕方だけを考える発問はさけ、行動の根拠となる心の在り方に関する発問を設定する。
- ③ 読み物教材において、教材中の副詞や副詞句に留意して発問を構成する。行動は動詞で表現されるが、内面的な心の動きを表現するのは副詞や副詞句である。

例) 下線の部分に注目して、ねらいにせまる発問をする

・・・夕焼けの光の中で、祖母の背中は幾分小さくなったように見えた。

発問「祖母の背中が『幾分小さくなったように』見えたのは、主人公の心にどのような思いがあったためだろう？」

道徳的価値の自覚を深める「展開」における発問例

1 展開前段～中心教材を通して価値を追求させる段階～	
ア 道徳的心情を問う発問	「～の場面での主人公は、どんな気持ちですか？」
	「～の時、主人公はどう感じましたか？」
	「主人公の心は、どうなりましたか？」
イ 道徳的判断力を問う発問	「主人公は、そのことをどう考えましたか？」
	「主人公は、どんなことがわかりましたか？」
	「主人公は、どちらを選ぼうとしたと思いますか？」
ウ 道徳的態度を問う発問	「主人公は、どんな生活をめざしましたか？」
	「主人公は、どんなことを心がけていますか？」
2 展開後段～価値を主体的に自覚させる段階	
ア 欠けていた面に目を向けさせる発問	「今までの自分の～に対する考え方で足りなかったと思うことはありますか？」
イ 直接経験から学ばせる発問	「～したとき、自分も悩んだり、迷ったりしたことはありませんでしたか？また、そのことを今、どう思いますか？」
ウ 間接経験から学ばせる発問	「～について、今までに人から聞いたり、本で読んだりしたことはありませんでしたか？また、そのことを今、どう思いますか？」
エ プラスやマイナスの経験を引き出す発問	「～について、今までにできたことや、できなかったことはありませんでしたか？また、そのことを今、どう思いますか？」
オ 主人公と比較して内省させる発問	「主人公と自分を比べて、違ったことや、新しく気が付いたことがありますか？」
カ 先人の行いから学ぶ発問	「～から私たちが学ぶことは、どんなことですか？また、それを生かすには、どんな心がけが大切だと思いますか？」

(3) 児童生徒の実態の把握

指導計画の作成にあたっては、児童生徒の実態を的確に把握することが必要である。実態に裏打ちされた授業でこそ、子どもの思考を深めたり広げたりする発問が可能となる。そのためには、日常の児童生徒の観察・記録を継続するとともに、児童生徒の道徳性をアンケート調査等により把握することが大切である。

＜指導計画＞ 道徳アンケート

これは、みなさんだけでなく周りの友達や先生に聞いて自分の考えを確かめたり、自分の考えを表現したりするためのものです。この結果を基に授業がすすみます。結果がどうなるかは、みんなの意見で決まります。ア～エの項目は、1つずつの質問です。ア～エの項目は、1つずつの質問です。

ア	イ	ウ	エ
1. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。	2. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。	3. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。	4. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。
5. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。	6. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。	7. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。	8. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。
9. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。	10. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。	11. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。	12. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。
13. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。	14. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。	15. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。	16. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。
17. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。	18. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。	19. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。	20. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。
21. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。	22. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。	23. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。	24. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。
25. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。	26. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。	27. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。	28. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。
29. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。	30. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。	31. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。	32. 自分が考えたことと、先生が考えたこととが一致している。

※このアンケートは、先生が作ったもので、先生が作ったものではないです。

道徳学習指導案

日 時 2019年9月18日 5校時
 場 所 福岡市立福岡第一小学校5年 3・4年
 指導者 教諭 幸田 光介

1. 主題名「正義に賛成することの難しさ」 A～(2)正義、誠実

2. ねらい
 正義や誠実さについて考え、用いる中で生活することについて考えることができるようになる。

3. 本時の教材
 「参考にするだけなら」 (小学道徳 教育出版)

4. 主題設定の理由
 (1) 児童(生徒)の実態
 ○「道徳アンケート」について
 本時にかかわる「道徳アンケート」の結果は、以下の通りである。アンケートは児童の実態の把握を目的として授業前に実施した。アンケート全体を把握すると、総じて自己評価が高めの傾向にあると考えられる。内容項目C、表いでAにおいてやや低めの評価が多い傾向は見られるが、すべての項目においてウ・エの「あてはまらない」に偏った傾向はないため、多くの児童が自分の道徳性に誇りを持っており、自己評価が適切であると考えられる。これらのことから、授業後の児童の「道徳」についてはアンケート結果のA・イが増える「道徳」のみを求めるとはならず、場合によってはウ・エが増える「道徳」でもかまわないと思っている。自分自身を見つめ直し、自己を認識し直すことも、道徳の学習のねらいの一つと考えらるからである。

項目	ア	イ	ウ	エ
1 自分の考えを大切にし、責任をもって行動している。	12	18	4	0
2 自分が決めたことを最後までやり遂げ、責任をしっかりと果たしている。	23	8	3	0
3 自分が決めたことを最後までやり遂げ、責任をしっかりと果たしている。	16	19	4	1
4 自分が決めたことを最後までやり遂げ、責任をしっかりと果たしている。	13	12	6	3

ア～エについて、そのとおりだ イ～だいたいしている、だいたいそのとおりだ ウ～あまりしていない、あまりそうではない エ～全然していない、全然そうではない

【R元年度実践例】

全ての実践校において、事前アンケートの活用による児童生徒の道徳性にかかわる実態把握を行い、それに基づいた授業の「ねらいとする価値」や「指導する内容項目」を設定した。アンケートは内容項目をもとに見る児童生徒の発達段階に合わせて作成し、研究授業を行う際に必ず実施することとして取り組んだ。

Ⅱ. 言語活動の充実を図る指導方法の工夫

1. 道徳科における言語活動の充実

学校の教育活動全体で言葉を生かした教育の充実が求められている。言葉は、知的活動だけではなく、コミュニケーションや感性、情緒の基盤である。道徳科の授業においてもその言葉を生かした教育についての充実を図ることが大切である。

(1) 道徳科の授業における言葉

道徳科の学習では、中心的な教材を活用し、児童の体験や教材に対する感じ方や考え方を交えながら話し合いを深めることが学習の中心となることが多い。その意味からも、道徳科の授業における言葉の役割はきわめて大きい。

国語科では言葉にかかわる基本的な能力が培われるが、道徳科の授業では、このような能力を基本に、教材や体験などから感じたことや考えたことをまとめ、発表し合ったり、討論や討議などにより意見の異なる考え方に接し、協働的に議論したり意見をまとめたりする。

具体的には、

- ・教材の内容や登場人物の気持ちや行為の動機などを考える。
- ・友達の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたり、話し合ったり書いたりする。
- ・学校内外での様々な体験を通して感じ、考えたことを、道徳科の授業において言葉を用いて交流したりする。

このような活動の中で、国語科等で培った言葉の能力が生かされ、一層高められていく。

したがって、道徳科の授業においては、このような言葉の能力を総動員させて学習に取り組みさせることが、ねらいを達成する上で重要である。

(2) 自分の考えを基に書いたり話し合ったりする（表現する）機会の充実

話し合いは道徳科の授業によく用いられる指導方法であるが、話し合いを深めるためには、児童生徒一人一人に自分の考えをもたせ、効果的に表現させるなどの工夫が必要である。

ア 自分の考えを明確にさせるための書く活動

教材から感じた自分の思いや考えを、自己の生活、体験、知的経験等に引き寄せて明らかにするためには、「書く」という活動が大変重要である。

書く活動により、児童生徒が自ら考えを深めたり、あいまいであった考えを整理したりする機会となる。

したがって道徳科の授業においては、自分の考えを明確にさせるための書く活動に必要な時間を十分に確保することが大切である。

また、書く活動により、児童生徒の感じ方や考え方をとらえ、個別指導を進める重要な機会にもなる。更に、1冊に綴じられた「道徳ノート」などを活用することによって、児童生徒の学習を継続的に深めるとともに、その変容を見取ることが可能となる。

イ 個々の考えを広げ、深めるための話し合い活動の工夫

道徳科の授業において、自分の思いや考えをより多面的にとらえたり、新たな考えに出会い深化させたり、自己の葛藤の中から新たな価値観を見いだしたりしていくためには、

話し合い活動が重要な役割を果たす。

話し合い活動を深めるためには、意見を出し合う、まとめる、比較する等の目的に応じて場の設定等を工夫することが大切である。具体的には、

- ・児童生徒同士の顔が見えるような座席配置を工夫する。
- ・グループやペアによる話し合いを取り入れる。(話す機会が増え、多くの発言を引き出すことができる)
- ・同じ考えをもつ子ども同士が集まるように座席の移動を行い、一人一人の立場を明確にして話し合う。などの工夫が考えられる。

道徳科の授業における話し合い活動は、友達との話し合いにより自分なりの思いや考えが深まり、道徳的価値の自覚につなげていくことが大切である。そのためには、学級の中に全ての意見を受け入れる温かい風土が確立されていることが前提となる。

2. 道徳科の授業における「書く活動」「話す活動」の役割とねらい

学校の教育活動全体で言葉を生かした教育の充実が求められている。言葉は、知的活動だけではなく、コミュニケーションや感性、情緒の基盤である。道徳科の授業においてもその言葉を生かした教育についての充実を図ることが大切である。

(1)「書く活動」の役割とねらい

書くことは、教材との出会いで生じた自身の思いや考えを深めたり、整理したりすることにつながる。また、書く際には、論理的な思考力や適切な判断力が求められ、それらの能力の育成にもつながる。そして、書くという自己を表現する活動によって、自分の考えや立場を明確にすることもできる。そして、書いた内容は周囲の人たちと共有し、共通のものとすることもできる。

本研究では、これらを「書く活動」の役割・ねらいとおさえる。

(2)「話す活動」の役割とねらい

話すことには、情報伝達の役割がある。また、他者に対して、自己についての理解をうながすねらいもある。そして、伝達や交流によってよりよい考えを生み出すという意味合いもある。

本研究では、これらを「話す活動」の役割・ねらいとおさえる。

◆「書く活動」の役割とねらい

- ①自らの考えを深めたり、整理したりする。
- ②論理的な思考力や適切な判断力を育成する。
- ③自分の考えや立場を明確にする。
- ④周囲の人たちと共有し、共通のものとする。

◆「話す活動」の役割・ねらい

- ①情報伝達のねらいがある。
- ②他者に対して、自己について理解をうながす。
- ③伝達や交流によってよりよい考えを生み出す。

「書く活動」と「話す活動」は、いずれも主として言語による表現活動である。前者は文字言語によって、後者は音声言語によって行われる。

学級で話し合うとき、事前に自分の考えなどを一人ひとりに書かせる。このことは、自分の考えを持つ機会になると同時に、「話す活動」に参加するための前提となる。

また、子どもたちは互いに話すことによって、違った考えや見方を知ることができ、新たな知識を習得することができる。この活動を通し、初めに考えたことが、その後に修正される可能性が生じてくる。

話したあとに改めて「書く活動」を組み入れることにより、これまでの学習を振り返り、自分の考えの変容を自覚することができ、自己評価をする機会になる。

3. 「書く活動」「話す活動」を生かした指導過程の工夫

「書く活動」と「話す活動」が道徳科の授業の中で意図的・計画的に仕組まれ、それぞれの活動を充実させることにより、道徳科のねらいである、道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考えを深めることにつながると考える。このような指導過程を基本とし、道徳科の授業を行うことによって、目指す子ども像「自己の生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする子ども」に迫っていきたいと考える。

【書く活動】



【話す活動】



【R元年度実践例】

明苑中学校

自分の考えをワークシートに書き込んだ後、グループ内で考えを伝え合った。この授業スタイルは、生徒が多面的・多角的に考えるきっかけとなった。

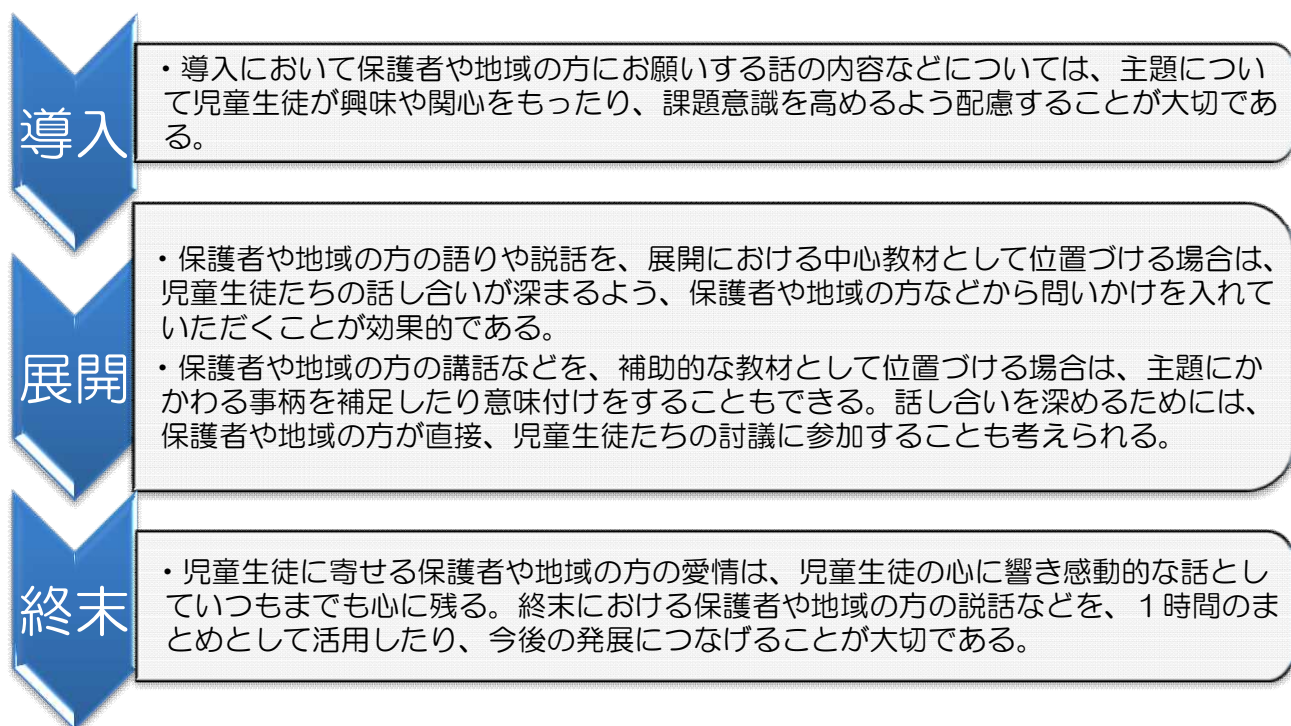
Ⅲ. 保護者や地域の方などの支援を得た指導の工夫

児童生徒に自他の生命を大切にするなど豊かな心をはぐくむためには、様々な人たちとのかかわり合いの中で、多様な生き方・考え方を学ばせることが必要である。

そのためには、道徳科の授業において保護者や地域の方などを外部講師として招き、生き方や生命に関する貴重な経験など、主題や中心教材にかかわって話をしてもらい、質問を受けてもらうなどの指導の工夫が求められる。

1. 学習指導過程への位置付け

保護者や地域の方などの支援による指導を充実させるためには、次の視点で学習指導過程を工夫することが大切である。



2. 保護者や地域の方を迎えるための配慮事項

保護者や地域の方の支援を得るにあたって次のことに配慮することが必要である。

道徳授業の特質	事前打ち合わせ	あいさつやお礼
・保護者や地域の方を招いた授業を授業改善の一つととらえ、道徳科の特質を押さえ、有意義なものとなるように工夫する。	・保護者や地域の方から協力をいただく目的、授業のねらいと参加していただく形態などについて、事前に打ち合わせをしておくことが大切である。	・保護者や地域の方に対する接し方やあいさつ、授業後のお礼の手紙など、児童生徒に対するきめ細やかな指導が必要である。

3. 道徳授業の発信と双方向の取組

児童生徒の豊かな心をはぐくむことは、1時間の授業のみで完結することはありません。また、学校における指導のみで十分ではないことも言うまでもない。学校と家庭が同じ方向を向き、子どもの豊かな心を育てる思いを共有しながら道徳教育を推進することによって、初めて成果が表れるものとする。

そのためには、学校で行っている道徳授業に関わる積極的な情報の発信と、教師と保護者双方の取組の推進が求められる。

第3章

令和元年度 授業実践

道徳科学習指導案

日 時 2019 年 9 月 18 日 5 校時

児 童 滝川市立滝川第一小学校 5 年 3 4 名

指導者 教諭 春田 大介

1. 主題名「正直に言うことの難しさ」 A－（2）正直，誠実

2. ねらい

正直さや誠実さについて考え、明るく心で生活することについて考えることができるようになる。

3. 本時の教材

「参考にするだけなら」（小学道徳 5 教育出版）

4. 主題設定の理由

（1）児童（生徒）の実態

○「道徳アンケート」について

本時にかかわる「道徳アンケート」の結果は、以下の通りである。アンケートは児童の実態の一側面を表すものとして授業前に実施した。

アンケート全体を俯瞰すると、総じて自己評価が高めの傾向にあると考えられる。内容項目 C、次いで A においてやや低めの評価が多い傾向は見られるが、すべての項目においてウ・エの「あてはまらない」に偏った質問はないため、多くの児童が自分の道徳性について肯定的に捉えている様子が見てとれる。

一方で教師による学級の実態の見取りとの乖離も見られる。これらのことから、授業後の児童の「変容」についてはアンケート結果のア・イが増える「変容」のみを求めるのではなく、場合によってはウ・エが増える「変容」でもかまわないと思っている。自分自身を見つめ直し、自己を認識し直すことも、道徳の学習のねらいの一つと考えるからである。

項 目			ア	イ	ウ	エ
A	1	自分の考えを大切にし、責任をもって行動している。	12	18	4	0
	2	自分の気持ちをごまかさず、みんなと明るく生活している。	23	8	3	0
	3	落ち着いた生活を送るように心がけている。	16	13	4	1
C	1	学校や社会のルールを守り、自分のすべきことを果たしている。	13	12	6	3

ア～いつもしている、そのとおりだ イ～だいたいしている、だいたいそのとおりだ
ウ～あまりしていない、あまりそうではない エ～全然していない、全然そうではない

○児童の実態

明るく、活発な学級集団であり、学習活動にも積極的に取り組むことができる。友人関係には若干の固定化も見られるが、概ね良好な関係を築いて生活することができている。

一方で、幼い言動や落ち着きのない言動は少なくなく、学級全体の空気としてもそれを課題と捉えて改善していこうという意識に薄さが見られる。

善悪の判断や高学年としてのあるべき姿を意識する姿勢は徐々に身につけているものの、行動と結びつけたり、声を掛け合って全体のものにしていったりという部分ではまだまだ成長の途上にあると考えられる。

本時の主題である、「正直，誠実」に関わっても、前述の通り大切さを理解することはできているが、行動と結びつけることの難しさや、日常の様々な場面において難しい判断に直面することがあるという点についてはさらに学習を深めさせたい部分である。

（２）教材分析及び教材観

①本教材の主人公は、宿題の読書感想文を書くためにインターネットで見つけた感想文を参考にしてしまう。しかし、その感想文のできがよく、学校の代表作品に選ばれてしまう。主人公はインターネットの感想文を半分以上書き写したことを言い出せず悩んでしまう。主人公が正直に行動するチャンスは何回かあるのだが、どのチャンスでも正直に行動することができない。

一度犯した過ちを認めると言うことは勇気のいることであり、頭で理解しているほど簡単なことではない。だからこそ、主人公の行動について考え、話し合うことがねらいとする価値について考えるきっかけになるであろう。

②高学年の児童に「正直，誠実」について考えさせる本時の学習において、「うそはいけません」「正直にしましょう」「わかりましたね」という表面的な「学習」とする展開を避けたい。大切なのは、「正直」に行動することの難しさや、そこに至るまでの葛藤に思いを寄せ、自分ならどう考えるか、友達はどう考えたかというやりとりを通して考えを深めることである。

また、教材文を物語の登場人物のストーリーとして捉えてしまうと、自分事として捉えることができず、表面的な理解になりがちなので、その点に留意し自分事として引き寄せる指導の展開を心がけたい。

５．指導の工夫

（１）「発問の工夫」・・・教材文を読んで、主人公はどうしたらよいのでしょうか、とだけ問えば表面的な「正直に言ったほうがいい」という反応が中心となり、学習は深まらなないと考える。

そこで本時では、学習内容を自分事として捉え、引き寄せるために、「してはいけないこと」をしてしまったときについて事前にアンケートを取っておき、導入に活用する。

この際、「どうしたらよいか」を表面的に問うことで、「正直に言う」という答えが多数を占めることが道徳アンケートの結果からも予想される。しかし、「正直に言う」ことは正しいことではあるが、実際には難しいことや、場面によって様々な判断が求められた

り、そこには葛藤が生じたりすることを、学習の展開の中で考え、感じることができるようにした上で、「自分だったらどうするか？」という問いを投げかけたい。

(2)「言語活動の充実」・・・自分の考えをまとめ、整理するため、ワークシートに「書く」活動を取り入れるとともに、他者の考えを知り、多面的・多角的に物事を考えるためにペアや全体の場で「話す」活動に取り組む。

また、文章での表現が不得手な児童も自分の考えを可視化できるよう、メーターを用いての意見交流も行う。

6. 本時の展開

段階	主な学習活動	形態	・留意点 ◆評価
導入 (5分)	○アンケートの結果から、課題意識を持つ うそをついてしまったことやしてはいけないことをしてしまったことについて、みんなはこんな経験があるようです。 こんなとき、どんな行動ができるでしょう。 ・正直に言える ・言えない 自分ならどうするか、黒板の矢印メーターの上に自分の考えを表してみましょう。 「してはいけないこと」をしてしまったとき、どのような行動ができるだろうか？ 教科書の文章を読み、今日のテーマについてみんなで考えていきます。	全体	
展開前半 (10分)	○「参考にするだけなら」を読み、段階を追って内容をつかむ。 桜さんのしてしまったことの問題は何でしょう。 ・写したこと ・半分以上写したこと ・正直に言わないこと 写してしまった桜さんはどんな気持ちだったでしょう。 ・少しだけなら ・書けないから仕方ない	全体	・教師の範読を聞く。 ・始めに主人公の行動の問題点を確認することで、その後の行動の背景にある思いを想像させたい。 ・写した分量が問題なのか問う ・「悪くない」という考えが出た場合、「著作権」の観点からもしてはいけない行為であることに触れる。

	急いで帰った桜さんはどんな気持ちだったでしょう。 ・ どうしよう ・ やめておけばよかった ・ 正直に言おうか ・ 大変なことになった ・ ばれないかもしれない ・ 怒られる		・ 順を追って気持ちを確認していくことで、状況の変化と主人公の葛藤についても考えられるようにしたい。
展開後半 (20分)	自分が桜さんだったら、どのように行動できそうですか。もう一度、矢印メーターに考えを表してみましょう。 ○道徳的判断の求められる場面について自分の考えを持つ 自分ならどのように行動できそうか、具体的に考え、話し合ってみましょう。 ○自分の考えを具体的な行動と結びつけて考える。 ・ 先生に明日正直に話す ・ お母さんに相談する ・ 友達にどうしたらいいか相談する ・ 先生に謝る ・ 正直に言いたいけど、言えないので黙っている。 ・ なんて言っていかわからない ・ もし賞を取ってしまったら、その時に謝る。	全体 個人 ↓ ペア ↓ 全体	・ 感想文を提出した後の場面で考えることを伝える。 ・ 話す/話さないの二者択一ではなく、様々な行動を考えてよいことを伝える。 【書く活動】 【話す活動】 ・ ワークシートに記入し、ペアで交流する。ペア交流の後、全体での交流を行う。 ・ おおまかに分類し矢印と対応させて板書する。
終末 (10分)	○道徳的価値についての問いに対する自分の考えをまとめる。 始めに考えた、「してはいけないことをしてしまったとき、どのように行動できるだろうか」ということについて、今日の学習から考えたことを書きましょう。 ・ 正直に言わなきゃいけない ・ 難しいけど、ちゃんとやった方がいい ・ 難しくってどうしていいかわからなくなった ・ 言わなきゃいけないのはわかっているけれど言えないときもあることがわかった		【書く活動】 ・ 「望ましい行動」への決意表明にするのではなく、難しさや葛藤があるということを通達の認識として捉えられるようにする。 ・ 導入の時点との考えの変化が見られれば、肯定的に取り上げるようにする。 ◆自己を見つめ、他者の考え方に触れることで、間違いや過ちを素直に認めることの難しさに気づき、自分との関わりの中で考えることができるか。(ワークシート・発表)

7. 評価

- (1) 自己を見つめ、他者の考え方に触れることで、間違いや過ちを素直に認めることの難しさに気づき、自分との関わりの中で考えることができているか。

(ワークシート、発言、授業中の姿)

8. 板書計画

○ 行動すること

◎ 正直に言うのは難しい

◎ 言わなきゃいけないのはわかるけど言えないときもある

◎ どうしていいかわからない

急いで帰った桜さん

- ・ どうしよう
- ・ 大変なことになった
- ・ 正直に言おうか
- ・ 誰かに相談しようか

怒られる
ばれないかも

問題点

- ・ 写したこと
- ・ 半分以上
- ・ 正直に言わない

気持ち

- ・ 少しだけなら...
- ・ ばれなければ
- ・ 書けないし、仕方ない

「してはいけないこと」をしてしまったとき、
どのような行動ができるだろうか。

参考にするだけなら

○ 桜さん

自分だったらどう行動する

- ・ 先生に明日正直に話す
- ・ お母さんに相談する。
- ・ 友達に相談する。
- ・ どうしたらいいかわからない。
- ・ もし賞を取ったら話す。
- ・ 言えないので黙っている。

言えない ←→ 考える

名前マグネットを貼る

導入・展開の2回、メーター上に意見を表す

《引用参考文献》

- ・ 小学校学習指導要領（平成 29 年告示） 文部科学省
- ・ 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編
廣済堂あかつき株式会社
- ・ 「特別の教科 道徳」ってなんだ？ 宮澤弘道・池田賢市 現代書館

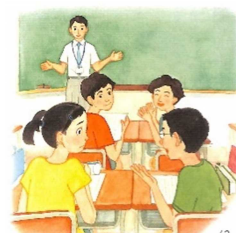
参考にするだけなら

- 自分なら、どのように行動できそうですか。
理由も考えてみましょう。

言えない

言える

- 「してはいけないこと」をしてしまったとき、どのように行動できるだろうか。
ということについて、今日の学習から考えたことを書きましょう。



道徳科学習指導案

日 時 令和元年12月19日(金)5校時
 児 童 滝川市立東小学校3年3組28名
 指導者 教諭 伊林 大介

1. 主題名「正しいと思ったことは自信をもって」

A－(1) 善悪の判断、自律、自由と責任

2. ねらい

正しいことと悪いことを的確に判断し、よい判断したことは、自信をもって行うことができるようになる。

3. 本時の教材

「自分をコントロール」

(小学どうとく3 はばたこう明日へ 教育出版)

4. 主題設定の理由

(1) 児童の実態

本授業を行うにあたり、ねらいとする価値に対する児童の実態を把握するため、道徳性に関するアンケート調査を実施した。本時に関連する項目の結果は次の通りである。

項 目			ア	イ	ウ	エ
A	1	正しいと思うことは、勇気をもって実行している。	16	12	0	0
	2	まちがったところは、すなおになおしている。	25	3	0	0
B	6	思いやりの気持ちを考えながら、親切に人と接している。	26	2	0	0
	10	自分の考えを相手に伝え、自分の考えとちがう意見を大切にしている。	23	5	0	0
C	11	人との約束や学校のきまりを守っている。	22	5	1	0
	12	だれに対しても同じ気持ちで接している。	17	8	3	0

ア～いつもしている、そのとおりだ イ～だいたいしている、だいたいそのとおりだ
 ウ～あまりしていない、あまりそうではない エ～全然していない、全然そうではない

3年生になり、初めてのクラス替えを経験した児童たちは、新たな出会いを大切に良好な人間関係を築き、集団生活に慣れてきた。また、物事に対して自分なりの判断ができるようになってきた。学級を良くしようとして、正しいことを行おうとする児童が多く見られ、友だちがよくないことをしていると注意する児童もいる。しかし、良くないとわかっ

ていても、周りの雰囲気の流れ、発言力の強い児童に引っ張られるなど友だちにきっぱり断る勇気がもてない児童がいる。

どんな立場にあっても、どう行動したら良いか悩みながら考え、自信をもって行おうとする気持ちを育てたい。

(2) 教材分析及び教材観

①小学生の主人公と中学生のお兄ちゃんの友だちが公園でラジコンカーを走らせている。すると、中学生の友だちが、砂場で遊んでいる女の子へ向けて、ラジコンカーを走らせようとするが、主人公が止める。翌日、校長先生が全校朝会で女の子を守ったことを話し、主人公が正しかったことを実感する構成である。主人公の立場を自分事として置き換え、自分ならどのような行動をするのか考えさせ、正しいことは自信をもって行おうとする心を育てたい。

②中学年になると善悪について自分なりに考え、判断できるようになってきている。しかし、恐怖心や自己中心的な考えなどから、悪いことと知りつつも周りに流れ、自分の弱さに負けてしまうことがある。そこで、正しいと思ったことは、勇気をもってやめることが大切であることを考えさせたい。その際、どのようにやめるべきか、とめるべきか話し合わせていきたい。

5. 指導の工夫

(1) 展開前半部分の発問は、意図的に発表させる。その際、児童のネームプレートを活用して、考えを吹き出し形式にすることで他の児童が意欲的に発表するようになる。これにより、児童がより多くの考え方に触れ、児童のその発言に対して、考えを書けなかった児童も何か思い出したかのように意見交流することをねらう。

(2) まとめはワールドカフェという手法を用いる。まとめの発問に対する自分の考えを書いたら、クラスの友だちの考えを読むために歩き回り、そして、自分とは違う考えや、最も印象を受けた答えを選択して、発表させる。これにより、数名の児童が発表するより多くの友だちの考え方にふれることができ、児童の考えに広がりをもたせる。

6. 本時の展開

段階	主な学習活動	形態	・留意点 ◆評価
導入 (3分)	○正しいと思ったことを進んでできたことがあるか想起させる。 ・中休みの廊下で友だちと走っていませんか？ 正しいと思ったことをするために、大切なことはなんでしょうか。	全体	・友だちと一緒に廊下を走ってしまったなど具体的なことを想起させる。

展開前半 (15分)	○「自分をコントロール」を P.62 途中まで読む。 ○「やめなよ！」と言ったとしみちの気持ちを考えさせる。 「やめなよ！」と言った時、としみちはどんな気持ちだったでしょうか。 ・注意しないと女の子がかわいそう ・あとで意地悪されるかもしれない。 ○主人公を自分事として捉え、注意できるか話し合わせる。 自分だったら、注意することはできるでしょうか。 ・勇気をもって、自分なら注意できる。 ・注意できないかもしれない。 ・中学生だから、少しこわい。	全体 全体 個人ペア	・教師の範読を聞く。 ・主人公の気持ちを考えさせ、意図的に発表させる。 ・主人公を自分事としてとらえ、多様な考えにふれる。 【話す活動】 ペア 【書く活動】 ワークシート ◆登場人物の行動を考えていることができるか。
展開後半 (20分)	○「自分をコントロール」を P.62 の続きから読む。 ○としみちがうれしくなった要因を確認する。 ・自分がしたことが正しいと思ったから。 ・校長先生に褒められたから。 ○正しいことは自信をもって行えるかモラルスキルトレーニングをする。 ※教師が年上役、指名した児童を年下役で取り組む。 正しいことを自分で判断して、行動してみよう。 【1つ目】 年上の子がそうじと一緒にさぼろうといっています。どのような行動をとるべきでしょうか。 【2つ目】 お祭りで友だちがごはん代を出してくれそうなき、どのような行動をとるべきでしょうか。	全体 全体 ペア	・教師の範読を聞く。 ・日常の場面で、相手の気持ちを考え、正しい判断で行動できるかモラルスキルトレーニングをする。 ・先生に相談するなど児童の考え方が広がるように声かけする。 ・児童にとって身近な状況に近づける。 【話す活動】 ペア（交代） →全体 ◆正しいことを自分で判断し、行動できているか。

終末 (7分)	○ワールドカフェを活用して、多様な考えにふれる。 正しいことをするために大切なことは何でしょうか。 ・ 勇気をもって、自信をもつ。 ・ 自分でしっかり考え、誰かに相談する。	個人全体	・ 正しいことをするには、どうすべきか自分事で考える。 【書く活動】ワークシート ◆ 正しいことを自分で判断できるか、自分との関わりで考えることができる。
--------------------	--	-------------	---

7. 評価

- (1) 自分が正しいと思ったことを実行することの大切さ、難しさやよさを、自分との関わりで考えることができる。
- (2) 正しいことと悪いことを判断し、よいと判断したことは、自信をもって行おうとする意識を高めることができる。

8. 板書計画

児童の考え

ふ



自分がしたことが正しいと思っ
たから。
校長先生にほめられたから。

○ 自分だったら、注意することができ
るでしょうか？

- ・ 勇気をもって、注意できる。
- ・ 注意できない。
- ・ 中学生だから、少しこわい。



女の子がかわいそう。
あとで、意地わるされそう…。

か

正しいと思ったことをするために、
大切なことはなんでしょうか

11 / 29 (金) P. 60

10 正しいことは自しんをもって
自分をコントロール

《引用参考文献》

- ・ 小学校学習指導要領（平成29年度告示） 文部科学省
- ・ 小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 特別の教科 道徳編

10 正しいことは自分で考えて
自分をコントロールして

か 正しいと思ったことをするために、大切なことはなんですか。

三年 組 番 名前

(一)「やめなよー!」と言った時、としてみちはどんな気持ちだったでしょうか。

--	--

(二) 自分だったら注意できますか。はい か いいえに○をつけて、理由を書きましょう。

はい	
いいえ	

29

(三) 正しいことをするために大切なことは何でしょうか。

--	--

(四) できたこと○をつけましょう。

しっかりと考えられた	
意見を聞いて、新しく気づいたことがあった。	
これから大切にしたいことがわかった。	



道徳科学習指導案

日 時 令和元年 11 月 6 日(水) 5 校時

生 徒 滝川市立明苑中学校 1 年 4 組 34 名

指導者 教諭 地原 美紗登

1. 主題名「人の力の及ばないもの」

D－(21) 感動、畏敬の念

2. ねらい

自然を畏れ、敬おうとする心情を育てる。

3. 本時の教材

中心教材「オーロラの向こうに」(教育出版『中学道徳1 とびだそう未来へ』)

副教材 「宗谷の開拓を大きく進めた一梨本弥五郎」

(北海道教育委員会 『北海道版道徳教材「きた ものがたり」』)

「不屈の開拓農民・山岳画家一坂本直行」(同)

4. 主題設定の理由

(1) 生徒の実態

本校の生徒たちは、北海道という自然環境に恵まれた土地で成長してきた。しかし、身近にあり、時には生活の一部であるが故に、その「自然」というものが自分たちにとってどれだけ大切なものであるかという部分に目を向けて考える機会はなかなかない。また、多忙な日々を過ごすうちに自然の中で過ごす時間が減ったり、室内でゲームや携帯電話、コンピュータなどの機械を相手に過ごす時間が増えたりと、日常生活の中で自然のよさを体感する機会が失われていることも否めない。

この地で生活するにあたり、自然の一部である私たち人間が、生活の根本である「自然」そのものに目を向け、それが自分の思い通りにならない力の及ばない存在であること、自らが自然に生かされていることに気づくことが、生徒の視野を広げ、自らの生活をより豊かにすることにつながると思う。

事前に行った道徳性に関するアンケートにおいて、「D(主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること)」の各内容項目に関する結果は以下の通りである。

項 目			ア	イ	ウ	エ
D	19	自分の命、他の人の命を大切にしている。	26	7	1	0
	20	自然や動物・植物を大切にしている。	26	6	2	0
	21	美しい音楽や絵画にふれたときに感動することがある。	12	14	5	3
	22	自分の弱さを乗り越え、目標に向かって生きていくことは、素晴らしいことだと思う。	27	6	1	0

ア～いつもしている、そのとおりだ イ～だいたいしている、だいたいそのとおりだ

ウ～あまりしていない、あまりそうではない エ～全然していない、全然そうではない

本時の授業内容とアンケートの文言との整合性から、必ずしも本時の内容と一致するものではないが、全体として D－(21) に関して関心が高くないことが読み取れる。「感動」というよりも「自然への畏敬の念」に重点を置く本時の展開の中ではあるが、心動かす気づきにつながる助言を心がけたい。

(2) 教材分析及び教材観

①中心教材は、オーロラに魅せられた「僕」が、過酷な自然環境の中に飛び込み、その美しさを写真におさめようとする姿を、美しい写真とともに伝える内容である。オーロラは必ずしも生徒に身近なものではないが、写真と資料動画の視聴により、教材への関心を高めさせることができる。また、過酷な自然現象と向き合う「僕」の行動と考えがそれぞれ具体的に述べられているため、各自が自らの体験と重ね合わせて読み取ることで、「自然と人間の関係」について広く考えるきっかけとしたい。

②北海道という地域性を生かし、実体験をもとに、自然と人間のさまざまな関係について考えさせたい。また副教材を適宜利用し、この地に生活したからこそ生まれた先人たちの功績にも目を向けさせることで、自然と人間との関係に心動かす経験につながることを期待したい。

※本市で採用している教科書においては、D-(21)の項目について、2学年で「宇宙と地球」、3学年で「自然界と動物（補助教材でアイヌの信仰）」が扱われる。これらと区別をするとともに、D-(20)自然愛護に偏った指導にならないよう配慮する必要がある。

5. 指導の工夫

- (1) 北海道という地では、自然のよい点だけでなく、自然に振り回された体験も想起させやすい。自然の中で味わったことや、そこで得られた感情をもとに、自然は畏敬すべきものであるという考えを深めさせる。
- (2) 中学1年生という成長段階を考えると、将来的な「畏敬の念」に結びつくような感想を引きだすことが精一杯である可能性が高い。将来の視野の拡大につなげるための工夫として、「自然に対してどのような感情をもつか」という視点で考えを深めさせる。また、自分の考えをまとめる時間、互いの考えを聞き合う時間となるべく保障し、多くの意見の中から自分なりの回答を見いだすよう働きかける。
- (3) 主教材の文章量が多い（教材朗読 CD で6分）が、授業のねらいは細かな内容を理解することではない。そこで、事前読みで簡単におさえさせ、全体では資料等を用いて概要を確認することとし、授業時間内に考えたり話し合ったりする時間を生み出す。

6. 本時の展開

段階	主な学習活動	形態	・留意点 ◆評価
事前	○事前に「オーロラの向こうに」を読む	個人	
導入 (3分)	○「自然」にはどのようなものがあるか考える ・山、海、空、水、土、木、風、天気、空気… 自分にとって、自然とはどのようなものなのだろう。 ・身の回りに当たり前にあるもの ・大切なもの ・人工的に作れないもの…	全体	・メモ程度にワークシートに記入させる ・意見を板書する

展開前半 (12分)	○教材 DVD 動画 (1:50) を鑑賞し、オーロラと著者の活動の様子について知る ○「オーロラの向こうに」の内容を確認する 「僕」にとって、自然とはどのようなものなのだろう。 ・感動を与えてくれるもの ・厳しさを突きつけてくるもの ・思い通りにならないもの	全体	・動画を TV で視聴させる ・教材 DVD を用い、「僕」の思いを整理する
展開後半 (20分)	○北海道の「自然」の様々な側面について考える 北海道の「自然」と「人」は、どのように関わっているだろう。 ・自然を楽しむ→スキー、花見、風景… ・自然を活用する→農業、雪冷房、発電… ・自然に影響される→雪害、震災、天候… など ○北海道の自然と関わることで足跡を残した人々について知る ・梨本弥五郎 (宗谷の開拓者) ・坂本直行 (山岳画家) ○これらをふまえて、自分たちと自然との関わりについて考える。 私たち北海道民にとって、自然とはどのようなものなのだろう。 ○個人で考えたことをグループで交流する ○全体で交流する	全体 Or グループ 全体 個人 グループ	・考えが浮かばないようであれば、ペアや少人数での話し合いを行う。 ・ワークシートで分類し、自然との関わりには様々な側面があること、そしてそれぞれも相互に関連していることに気づかせる。 ・震災や天候等、経験から「思い通りにならない」ものであることも認識する ・「きたものがたり」から各人が北海道の自然に関わる中で生み出したものを紹介する。 【書く活動】ワークシート ・自由な発想で考えをまとめる 【話す活動】グループ ・意見交流 ・数人に指名し発表させる

終末 (15分)	○今後、自分がどのように自然と向き合っていくべきか、考えをまとめる 人間は、「自然」に対してどんな気持ちをもって生きていくべきだろうか。 ・謙虚な気持ちをもって大切にする ・厳しさもあるが、安らぎも与えてくれる、他に代えられない存在として敬う ・思い通りにならないけれどもなくてはならないものなので、自然を受け入れる ○意見を発表し、交流する ○授業の振り返りを記入 ・ワークシートを提出する	個人	◆自然を畏れ敬うことについて、自分の考えを広げ、深めているか。 (ワークシート)
		全体 個人	・「きたものがたり」の該当ページ資料を配布する。

7. 評価

(1) 自然を畏れ敬うということについて、自分の考えを広げ、深めているか。

8. 板書計画

「自然」とは 山、海、空、水…					
自分にとって		「僕」にとって		北海道民にとって	
・大切なもの		・感動を与えてくれるもの		楽しむ	活用する 影響される
・当たり前にあるもの		・思い通りにならないもの		・…	・…
				・…	・…

《引用参考文献》

・二十一世紀に生きる君たちへ (司馬遼太郎)

世界文化社

【補助教材】

- ・ 中学道徳1 とびだそう未来へ 教師用指導書デジタル資料集 DVD-ROM
- ・ 自作パワーポイント資料

30 オーロラの向こうに

1年 組 番 氏名 _____

★「自然」とは…

自分にとって…

僕（松本さん）にとって…

★北海道の「自然」と「人」は、どのように関わっているだろう？

自然を楽しむ	自然を活用する	自然に影響される	その他

★北海道民にとって「自然」とはどのようなものなのだろう？

★人間は「自然」に対してどんな気持ちをもって生きていくべきだろうか？

★今日の授業を振り返り、自分にあてはまるところに○をつけよう。

①	「自然」と「人」の 関わりについて	あまり考えることができなかった	考えることができた	深く考えることができた	自分のこととして考えることができた
②	「自然」に対する 気持ちについて	あまり考えることができなかった	考えることができた	深く考えることができた	自分のこととして考えることができた

授業実践の反省 ～研究協議より～

滝川第一小学校 春田 大介 教諭の授業

☆指導の工夫について

(1) 発問の工夫

- ・発問を支える挿絵やメーターは、効果的であった。
- ・子どもの心を動かすように言葉が整理され、吟味されていた。
- ・事前のアンケートは、議論が盛り上がるきっかけとなっていてよかった。
- ・事前アンケートを実施していたことで課題を提示した時に自分たちにとって身近なものだという意識付けができていた。
- ・指導案上では「写してしまった桜さんの気持ち」を問うことになっていたが「桜さんはどんな気持ちで写したのか」を問うことになってしまったため、求める価値と異なる答えが出ていた。
- ・教師側からの「問い返し」がもっとあってもよかったのではないかな。
- ・「自分だったらどうするか」という発問は、子どもたちの本心を浮かび上がらせることにつながっていた。



(2) 言語活動の充実

- ・多くの児童が「書くこと」ができていた。しかし、発言に結び付いていなかった。
- ・授業の前半にもペアで話し合うことがあってもよかったのではないかな。
- ・しっかりと自分の考えに自信をもって伝えている場面が見られて、日常の取組が生きていると感じた。
- ・対話的な活動と書く活動が計画的に取り入れられていた。

☆授業全般について

<導入>

- 子どもたちのアンケートには、正直なことが書かれていた。学級内で正直に書ける(言える)良好な関係が出来上がっている。
- 子どもたちのアンケートを見せることにより、ぐっと関心がわいたようだった。
- メーターは、子どもたちが言っていた通り、場合にもよるので自分の名前をそこに貼るのは難しいかなと思った。
- メーターに「真ん中」があってもよかったのではないかな。

<展開>

- 「自分なのか、登場人物なのか」、立場を切り替えて子どもたちは考えることができていた。
- 子どもへの支援がしっかりとできていたため、子どもたちの意欲的な姿が見られた。発表した後にも、さらにワークシートへ書いている子もいた。
- ペアでの交流の際に、ワークシートに書いていることを読んでいるだけのペアがあった。そうではなく、それをもとに話し合いを進められているペアがあったので、このようなペアでの交流が必要である。
- 中心発問まで時間がかかってしまっていた。
- 教師の「問い返し」があり、学習に深まりが出たと思った。
- 子どもたちの発言を引き出し、できるだけ子どもの言葉で授業を進めていこうとする姿が素敵だった。
- 急いで帰った桜さんの気持ちを考えるところに時間をかけすぎてしまったため、まとめまで辿り着けなかったのではないかな。
- 誰にでも正直に言えた時とそうでないときの経験があると思う。その時の行動や気持ちを交流

することで、「人としての弱さ」や「正直、誠実」を考えることができたのではないか。
○メーターを使った子どもたちの 1 回目と 2 回目の判断(選択)の関連性が弱かったのではないか。

<終末>

- 終末までできなかったが、授業展開はスムーズであった。
- 「どうして正直がよいのか」というところまで触れられるとよかった。
- 授業の展開上、「場合によっては、正直に言わなくてもいい」と押さえてしまった子もいたのではないか。今後、その「場合によって」をどのように子どもたちが判断していくのかが気になった。
- 教師が「正直に言うこと」を価値化している発言があった。それが教科として目指す方向性ではないと思う。

☆指導の工夫について

(1) 意見交流の工夫 ※ネームプレート

- ・児童は黒板に貼られたネームプレートを見ることで、発言したいという思いになっていた。
- ・意図的に指名し、ネームプレートを黒板に貼っていたことは有効であった。
- ・ペア、全体など様々なかたちで意見交流が行われていた。
- ・短時間の意見交流が多くみられたので良かった。
- ・子どもの動きが素早く、日常的に意見交流が行われていることが伝わってきた。
- ・全体での交流にもっと時間を取ることができれば良かったのではないかな。そのためには、交流させる内容の厳選が必要である。
- ・チョークの色や吹き出しの形状など変化をつけるとイメージがまとまりやすかったのではないかな。

(2) 多様な見方・考え方に気付かせる工夫 ※ワールドカフェ

- ・ワールドカフェは良かったが、もう少し時間がほしかった。
- ・ワールドカフェは、挙手による発言より多くの意見を知ることができて良いと思った。
- ・他者の考えに目を向け、知ろうとする姿勢が見られた。時間があれば、さらに深めることができたと思う。
- ・個人解決の時間に何を押さえるか、集団解決の時間に何を押さえるかを定着させると子どもたちの「よさ」が更に花開くと思う。
- ・今回は、見て、聞いて、「なるほど」で終わった感じの子が多くはなかったのではないかなと思う。

☆授業全般について

<導入>

- 短時間の「導入」が良かった。
- 教材の音読まで、スムーズに進めたことが良かった。
- すぐ「展開」に流れていたが、板書のタイミングを含めて、今日は何をするのかを理解させてから展開へ流れるとよかったのではないかな。
- 児童にゆさぶりをかける「補助発問」が良かった。
- 学習課題の板書は、最初に提示するべきではなかったかなと思う。

<展開>

- 登場人物の気持ちや状況をしっかりと押さえていたところが良かった。
- ペアやグループでの話し合いがスムーズにできていた。
- モラルスキルトレーニングの際、自分ならどうするかという視点で考えられていたところが良かった。
- モラルスキルトレーニングをすることで、児童は行動にはいろいろな方法があるということに気付くことができたと思った。
- モラルスキルトレーニングは設定をしっかりとしなければならなかったと思った。
- 補助発問や指示により授業がブレていったところがあった。
- 今回は、教材の分割提示の効果は薄かったのではないかなと思った。



<終末>

- 3年生なりに正しいと思ったことをどのように表現していくか、関わっていくかをしっかりと考えることができていた。
- ワールドカフェをもう少し見ることで、その有効性を感じることができたのではないか。
- モラルスキルトレーニングを一つカットすると、ワールドカフェが充実したのではないか。

☆指導の工夫について

(1) 地域素材の活用 ※北海道版道徳教材『きた ものがたり』の活用を含む

- ・北海道と自然の親和性が有効であった。
- ・「自然」と「北海道」を結びつけて考えさせることにより、展開後半から思考が深まっていった。
- ・タイトな1時間の授業の中に「きた ものがたり」の2つの話を組み込んだことが素晴らしいかった。身近な話で興味を引くことができた。
- ・子どもたちが自然豊かな北海道のことを頭の中にイメージしながら考えていた。
- ・1学年が行っているフィールドワークも関連させていた。

(2) 時間の保障 ①個人思考及び学び合い

②資料の読み取り

- ・発問はパワーポイントで示して生徒が考えやすいようにしていた。
- ・事前（朝学習）に資料を読ませていたことで、その時間を違う時間に使うことができた。
- ・全体での交流も考えを深める一助となっていた。



☆授業全般について

<導入>

- できるだけ多くの生徒の発言を拾っていた。
- 「自分にとって・・・」という導入が、本時の話題をより身近なものに感じさせていた。
- 本時は「何を考えていくのか」ということを黒板に示しておくによりよかったのではないかな。
- 見通しをもって授業に臨めるのではないかな。
- 終末の発問を本時のねらい（目標）として、板書していてもよかったのではないかな。
- 導入をもう少しスリムにしてもよかったのではないかな。
- 考えを狭めてしまう危険性も考えられるため、テーマの提示の仕方に気を付けた方がよいのではないかな。

<展開>

- 映像資料があったことにより、本時のねらいに迫ることができたのではないかな。
- ICTを活用することにより、教材の内容をテンポよく確認することができていた。
- ワークシートに記入後、交流させることで北海道の自然と人との深い関わりについて生徒は実感することができていた。
- 展開前半の活動が、効果的であったため、北海道民にとって自然とはどのようなものかということについて、自分が感じたことを言葉で表現できていた。
- 導入部から展開部にわたっての子どもたちの言葉を引き出す流れがよかった。
- 「きた ものがたり」による偉人の紹介は、簡単ではあったが生徒たちに良い影響を与えていた。様々な観点から考えて、最後に自分はどう向き合ったのかということに繋がっていった。

<終末>

- 畏敬の念に関係する生徒の発言が多くみられた。
- 「人間は『自然』に対して、どんな気持ちをもって生きていくべきだろうか。」という難しい問いに対して、生徒はとても自然に自分の思いを表現できていた。指導者の意図する答えが出ていたということは展開部が効果的であったということではないかな。
- まとめを書く時間はもう少し保障できるとよかった。そのために、導入部をもう少しコンパクトにすることも必要だったのではないかな。

○「感謝」「敬意」など、キーワードとなる言葉が生徒たちから出ていた。ねらいに迫る生徒を見ることができた。

第4章

成果と課題

1 研究内容について

（1）児童生徒の思考を深める発問の工夫

【視点】

①児童生徒の思考を深める発問の工夫

ア：学習指導過程の特質に応じた発問の工夫

イ：「展開」における教材の魅力を引き出す発問の工夫

ウ：児童生徒の実態の把握

成果

- ・道徳的判断の求められる場面において自分の考えを持たせる発問になるような工夫がされていた。（「価値の大切さ」について気付いている生徒に対し、「自分ならどのように行動できそうか」と問いかけるなど）
- ・児童生徒に「考えさせたいこと」を意識した発問がなされており、展開につなげることができていた。
- ・学級の実態に応じた発問は、後の展開を見通して吟味する必要があることが再確認された。
- ・教材を「自分事」として引き寄せる発問や展開の重要性と難しさが再確認された。
- ・主題に迫る効果的な発問がどの授業においても生かされていた。
- ・指導案検討や事後検討などを通して、児童・生徒の発達段階に応じた発問について、深める事ができたのではないかと考えます。有効な発問は、表向きではなく、「ルールだから守るのか？」「ルールじゃなければ守らないのか？」「真に守るべきものは何なのか」ということについて、児童に考えさせるものと確認できたのではないのでしょうか。
- ・各授業とも、児童が時間的な余裕を持って、自分の考えをまとめ、それをあらゆる手段で交流する流れとなっており、よかった。
- ・どの授業も児童の実態に合わせた発問を工夫されていた。アンケートなど事前調査によって、実態を把握し効果的な発問になっていたと思う。
- ・本時の課題解決に迫るために、段階的に物事を捉えさせたり、考えを整理させたりする発問が考えられていてよかった（明苑中 地原先生の授業）。
- ・春田先生の授業研の導入では、日常生活での「正直に言える・言えない」アンケートを事前にとることによって、スムーズな展開となっていた。
- ・地原先生の授業研では、教材を事前に読むことによって、生徒の思考の時間を確保することができた。
- ・ネームプレートを活用して、天秤（矢印メーター）で気持ちを表出することができるのでかなり有効だと感じた。
- ・黒板への掲示物、映像、ワークシート等を用いたことが、児童生徒の思考を促すような発問へとつながっていた。
- ・事前アンケートを行い、児童生徒の実態をある程度把握したうえで、本時のねらいに向けた指導展開を試みることができた。
- ・教師側が事前に吟味して発問することによって、児童生徒の思考を深めることができていた。

	・子どもが深く考えていけるような発問が工夫されていた。多様な考え、複雑な思いを導き出せていたと思う。 ○ 児童の実態や教材、学習過程などに応じて、発問が工夫されていた。 ・考えを持たせるための発問 ・主題に迫る発問 ・発達段階に応じた発問 ○ 事前アンケートの実施により、児童生徒の実態を把握することができ、本時のねらいに迫る学習展開を考えるうえで参考となった。
課題	・道徳の学習では発問の一言一句が子どもたちの考えの方向(授業の方向)を左右することが多い。慎重な吟味が求められる。 ・時間配分の難しさはいずれの段階でも大きな課題となったため、発問の吟味からもタイムマネジメントを考えていく必要がある。 ・課題に向かわせていくためのより精選された発問の内容であったり、発問に対する答えの取り扱い方 ・教材のどの部分を主に考えること（主発問？）にして、教材を頼りに価値を深めていくのがやはり難しいと思います。次年度に向けては、例えば「教材の中の、登場人物が取った行動に対して、主発問を考えるとやりやすい」などの、ある程度のパターンを会議として示せるとよいのではないのでしょうか。 ・教科書の内容を、いかに自分のこととしてとらえさせるか、特に導入の問いかけが展開へと大きくつながる。そこが今後の課題となると考える。 ・子どもの思考の時間を確保するあまりタイムマネジメントが疎かになってしまった。 ・子どもの問い返しを重要にしなければならない。（表向きのと、その裏にある本当に価値項目を引き出す。） ・読み物教材に多くの時間を割いたり、読み物教材から離れるいわゆる「展開後半」へのスムーズな流れに持って行くことが課題になることがあった。 ・児童生徒の発想をさまざまな方向から想定し、求められる道徳的価値にたどり着くかどうかを検討する大切さを確認できた。 ・発問の言葉尻が1つ違うだけでも、児童生徒の発想の方向は変わってくるということを指導者がしっかりと認識し、熟考する必要がある。 ・発達段階によっては、「もし自分なら」という問いに、「望ましい答え」を出してしまう様子が見られた。本当にその事例に対峙したときにどうなるのかを、自分ごととして考えられる展開の工夫が必要。 ・今回実施した道徳アンケートの内容項目は、必ずしも教材内容と一致するとは言い難く、実態把握のための材料としてはあまり価値を感じない。継続するのであれば指導計画等をもとに学年ごとに文言を変えるなどする必要がある。 ・授業の前半では考えさせる場面をある程度限定していかないと、後半の深める活動の時間が足りなくなってしまう。

- 「導入、展開(前半・後半)、終末」の指導過程を円滑につなげるための方策。
 - ・発問の在り方
 - ・活動の重点化
- 多様な教材の効果的な活用方法。
 - ・長文教材
 - ・挿絵
- 道徳的価値について考えさせる「中心発問」の吟味。
- 「道徳アンケート」の項目の精査。

(2) 言語活動の充実を図る指導方法の工夫

【視点】

①道徳科における言語活動の充実

ア：道徳科の授業における言葉

イ：自分の考えを基に書いたり話し合ったりする(表現する)機会の充実

成果

- ・「教材の理解」をベースに、「個人思考」「集団思考」という流れを、全市で確立できた点は成果だと考えます。授業の基本的な流れが、児童・生徒にも定着する事で、見通しを持って、取り組む事ができるのではないのでしょうか？
- ・言語化されない考えや思いをどう拾い上げるかということは昨年からの課題であった。メーターやロールプレイ、モラルスキルトレーニングなど、様々な手法を通して表現する機会の充実を図ることができたのではないかと。
- ・ペアやグループでの学習が自然と行われ、お互い言い合える雰囲気できていてよかった。
- ・ワークシートを、自分の考えをまとめる手段として、有効に活用していた。交流にも、いろいろな方法があることを確認した。
- ・自分の考えたことを、ペアやグループで交流する活動が多くあり全体場で発表に至らなかった子にとっても自分の考えを深めるきっかけになっていたと思うので、適切な場面に機会を設けて活動させることはとても重要だと感じた。
- ・子どもにとって理解が難しい言葉を説明するのはとてもよかった。
- ・道徳の授業だけではなく、他教科を含めた日頃の指導の取組みもあり、活発な言語活動がなされていた。
- ・どの授業(学級)でも、進んで自分の考えを周囲に伝えようとする雰囲気があった。学級担任だけで抱えず、日頃から学年、学校全体でその風土を作ることが大切。
- ・メーターに名前を貼ることによりお互いの考えが可視化され、話し合いがしやすい。
- ・まずワークシートに記入させることで、自分の考えを整理することができる。
- ・発問にもよるが、制限時間を短めに設定することで、1人ではあまりたくさんのアイディアが浮かばず、小集団で意見を交流する意義が生まれる。
- ・話す活動の時間を保障するために、教科書本文内容をパワーポイントなどで簡潔にまとめ示していた。

	・ペア学習などを取り入れて、自分の考えを表現できる場を作ることができていた。 ○ 「個人思考」から「集団思考」への流れの確立により、見通しをもって学習に取り組む児童生徒の姿が見られた。 ○ ペアやグループでの交流が、自らの考えを深めるきっかけとして、効果的に機能していた。 ○ 表現する機会の充実 ・メーター、ロールプレイ、モラルスキルトレーニング、ワールドカフェ
課題	・さらに教材やねらいに応じた手法の有効性に関して研究が必要である。 ・何のためのペアやグループ学習なのかをより明確にする必要がある。 ・自分の考えをもとに、であるから、ペアや小集団などの学習形態に入る前に、自分自身の考えが定まっている必要があるのではないのでしょうか。確かに、意見がなかなか出ない、また、今そういった訓練をしている学習集団では、ペアで少し意見交換させる事のメリットは認めるが、やはり「しっかりとした個人思考」を基に授業を行っていくべきだと感じます。 ・積極的に発言・交流できない子への手立て。 ・適切な交流の持ち方や場面、回数については今後も研究が必要か。 ・子どもの言葉で授業を展開していくと、予期していない価値項目へと広がってしまうことがあった。 ・ペア・グループワークを多用してはいけない。 ・モラルスキルトレーニングの活用方法について。 ・経験を通し、自分の考えを表現する語彙が習得できるよう努める必要がある。 ・考えを伝えるだけでなく、他者の考えから自分の考えを深める場面を設けられるとよい。…が、そのためには指導内容を厳選し、考える時間を保障する必要がある。 ・考えを深める話し合いのさせ方について。 ・子どもたちが表現したことをさらに深めていくには、どうすればよいのか、自分には難しいと感じました。 ● 「個人思考」及び「集団思考」の効果的な取り入れ方。 ● 目的が明確となったペアやグループでの交流。 ● 考えを深めさせるための方法及び深めた姿の見取り方。

②道徳科の授業における「書く活動」「話す活動」の役割とねらい

ア：「書く活動」の役割とねらい

イ：「話す活動」の役割とねらい

成果	ア：「書く活動」の役割とねらい ・今年度もワークシートを中心とした「書く活動」をもとにして「話す」という流れは基本的な流れとして有効性が確認された。書く活動には自分の考えを明らかにし、自分の考えを整理する役割が期待される。話す活動は、それぞれの考えや思いを表出させ合う場となる。交流から深化を図るうえで不可欠であった。 ・ワークシートに自分の考えをしっかりと書いていた。また、伝え合う方法も様々なやり方が試せてよかった。 ・書く活動を効果的に取り入れる事で、個人思考を「見える化」したり、最後に自分自身の学習活動を振り返ったりさせる事ができたと考えます。 ・話す活動を効果的に取り入れる事で、自分の考えに対して自信を持ったり、他人の考えを聞いて、新しい視点から考えを深めたりする事ができたと考えます。 ・書く活動は、自分の考えを整理するため、発言・交流のよりどころとして有効であった。また、後で教師が見て、評価するときに役立つ。 ・書くことによって自分の考えをはっきりさせることができ、それを友達と話して交流することができるので、書く→話すという活動は有効だと思う。友達と交流した後でも、付け足しや、意見が変わったなどのことがはっきりするのでその点でもよいと思う。 ・書けないとしても天秤（矢印メーター）を活用することで、意思を表出することができた。 ・書くことによって、評価をしやすくなる。 ・話すことで自分の思いがまとまっていく子どもたちがいた。 ・「書く活動」「話す活動」のねらいにそって、授業者がどの場面でその活動をさせるのか工夫されていた。 ・事前に自分の考えを書く活動は、指導者が意見を集約し拾い上げたり、自分の意見を他者に伝えるために整理したりする段階として有効であった。 ・多数の生徒は書くことで考えがはっきりしていく。考えを書くことが苦手な生徒は、友達と話すことで気付くことが多い。 ○ 書く活動 ・児童生徒にとって、自分の考えを整理したり、発言、交流の際に拠り所となったり、学習を振り返ったりする場となっていた。 ○ 話す活動 ・児童生徒にとって、他者の考えをもとに新たな視点から考えたり、自分の考えに自信を持ったりすることができる場となっていた。 ○ 「書く活動」及び「話す活動」 ・教師にとって、児童生徒の考えを確認し、授業展開に生かしたり、評価に活用したりすることができる場となっていた。
----	---

課題	• それぞれの活動のねらいを明確にしないまま、「とりあえず書く」「とりあえず話す（発表し合う）」という活動になることを避ける必要がある。時間管理の上からも。 • 話すことが苦手な児童への支援 • 「何を」「どのような目的で」「どのように書かせるのか？」という整理ができるとよいと感じました。道徳では、「活動時間の創出」が良い授業のポイントの1つになると思います。私自身も、まだまだ勉強不足ですが、この点について、深めていく事で、集団解決だったり、最後の振り返りの場面だったり、時間を使えるのではないのでしょうか。＊話す活動についても、同様に感じます。 • 書く活動、話す活動どちらにも言えることだが、時間の確保について。 • 自分のクラスの実態と照らして考えると…書けない子にとっては難しい点があるが、それを交流によって補うなどの配慮が必要か。書けない子は、大体交流もできず、聞くだけになってしまうことが多いと思うが、それでよしとする教師側の押さえや、声かけなども必要か。 • 自分の時がそうだったが、書かせればよいというわけではなく、何を重点的に書かせたいが大切であることがわかった。 • 1 単位時間の中でさせるべき内容の厳選と時間の確保。 ● 目的が明確となった「書く活動」及び「話す活動」。 ● 1 単位時間における「書く活動」及び「話す活動」に係る時間の配分。
----	---

③「書く活動」「話す活動」を生かした指導過程の工夫

成果	・「書く活動」「話す活動」をワークシートの記入項目の発表に終わらせるのではなく、グループでの交流、ロールプレイ、メーターによる表現など、場面によって異なる手法を活用できることを確認し、活動の幅を広げることができた。 ・まずは自分で考えて取り組むことからスタートし、ペア・グループ・全体へと効果的に学習態勢を広げていけていた。 ・指導過程に「話す活動」「書く活動」を取り入れていくために、指導過程のどの部分にどれだけ時間をかけるかという話し合いに価値があると感じました。 ・書く活動により、自分の考えをまとめ、話す活動により、それをさらに広げるという流れは有効であった。 ・発達段階において、しっかり書くことが大切だとわかった。 ・天秤（矢印メーター）を活用するのはとてもよいと感じた。 ・ワールドカフェの活用もよかった。 ・ワールドカフェは多様な考えを知る上で、とても有効だと感じた。 ・どの授業も、教材の読み取りではなく、考えを書く、話すという活動を中心に構成され、児童生徒の活発な取り組みが見られた。 ・ペアやグループなどで話すことで、意見を交流し、様々な考えにふれることができた。 ・授業の中に効果的に取り入れられていました。全体で発言できない子にとっては、大切な場だったと思います。 ○ 考えを深めるために「書く活動」から「話す活動」へという展開が、有効であった。 ○ 教材の読み取りが中心ではなく、考えを「書く」「話す」が中心となった授業展開により、児童生徒が活発に取り組む姿が見られた。 ○ ワークシートの活用だけでなく、ロールプレイ、メーター等の活用により、表現する場に広がりが見られた。
----	--

課題	・「書けない」「話せない」児童生徒の存在を認識し、国語の活動・評価にならない活動の設定が必要。 ・評価との関連もさらに研究が必要。「書く・話す」活動をするとう評価が成果物の出来不出来に偏りがち。 ・評価をどのように行っていくか。 ・書く活動・話す活動をさせるための指導過程を、「導入段階」から考えている授業が多かったように感じますが、授業の中で行った「書く活動」「話す活動」を活かすには「終末（まとめ・振り返り）」の段階から考えていった方が良いのではないかと感じました。 ・話す活動、交流においては、必要・目的に応じた人数の設定が必要。 ・モラルスキルトレーニングの活用方法をしりたい。 ・書くことは自分の思考を整理することにつながるが、1単位時間内で授業展開を行う場合、すべての発問で「書く活動」を行うと時間的なムリが生じるので、的を絞った「書く活動」の場面設定が必要だと思う。また、そうすることによって多様な考えを交流し合える「話す活動」の時間を設けることができる。 ・どうしても時間がかかる活動になる。時間確保のため、各教材で重視するポイントを絞るなど、取捨選択する必要がある。 ・教材の指導項目によっては、話がふくらまないことを想定した指導者からの「ネタ」の準備が必要。 ・深まる話し合いにすること。 ● 「書く活動」及び「話す活動」を生かすための授業づくり。 ● メーター、ロールプレイ、モラルスキルトレーニング等の効果的な活用方法。
----	---

（３）保護者や地域の方などの支援を得た指導の工夫

【視点】

- ①学習指導過程への位置付け
- ②保護者や地域の方を迎えるための配慮事項
- ③道徳授業の発信と双方向の取組

成果	・参観日での公開を意識的に行った。保護者と共有したい「情報モラル」というテーマに合わせた意図的な授業公開を懇談会とも関連させたことで一定の成果があったと考えている。 ・学級通信や、学期末懇談の中で、道徳について触れる中で、「道徳の授業って何だろう？」「どのように行われるのだろうか？」という保護者の疑問に、ある程度答える（応える？）事が出来たと考える。 ・道徳研究会議ではないが、東小の公開研（道徳を実施）で自然史美術館より巻物などを拝借した。 ・まずはこの研究会の中で、複数校で同内容による指導が実現できたことは「地域のつながり」と考えられるのでは？
----	---

	○ 参観日における授業公開及び懇談会、学級通信等により道徳についての情報を発信することができた。 ○ 複数校で同じ学習内容(教材)による指導を行うことにより、他校の様子をもとに指導案を作成することができた。
課題	・ 全校的な取り組みとするには課題は多い。単に「年に一度は公開を」というだけでは意味が薄い。 ・ 「保護者や地域の方を迎える」と一口に言っても指導観の共有やねらいの共有などは難しく、容易ではない。既存の教材との関連で活用できる人材の発掘が現実的かもしれない。 ・ 道徳の授業の実際は、通信などでお知らせしても、イメージできない保護者もいる。やはり、実際の授業の様子を見ていただく事も大事なのではないだろうか。 ・ 「〇〇さんが、授業で道徳的価値を深めました。」という文言では、やはり保護者は自分のお子さんが何をしたのかイメージできない。保護者がイメージできるあゆみの文言、またそれを考えるための基礎資料を会議から発信する必要はないだろうか。 ・ 道徳の授業だけでなく、学習した内容を日常的に生かしていくための手立て。 ・ 外部との連絡調整を行いながらの授業は、条件が整っていないと年に何度もできるものではないと思う〈負担が大きい〉。どんな授業にどんな支援を受けられるか事例を積み重ねていくことが必要。ただ、それをどうやって見つけていくかも負担が大きい。 ・ 年間を通したどの場面で保護者や地域の方などの支援をお願いするか、年間計画の必要性を感じた。 ・ 外部からの協力を得るためには、どの項目（教材）でどのような関わりを必要とするかを指導者が吟味する必要がある。ただ目標として掲げるだけでなく、1年に1つだけでも、具体的に動いていかなければ進展はない。 ・ 授業内容の発信方法なども、この研究会で交流することで、新しい方法を探れるとよい。 ● 授業公開や学級通信等による道徳についての情報発信だけでなく、あゆみ(通知票)からも保護者が子どもの成長を実感できること。 *本会議から文言等についての情報発信 ● 外部講師を活用した事例の積み重ね。

(4) その他

- ・ みんなでひとつの授業について検討し、反省し合えたことは大きな成果となった。

《参考・引用文献》

- ・ 小学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省
- ・ 中学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省
- ・ 小学校学習指導要領 解説―特別の教科 道徳― 文部科学省
- ・ 中学校学習指導要領 解説―特別の教科 道徳― 文部科学省
- ・ 「道徳教育アーカイブ」 文部科学省
- ・ 平成27年度小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 平成28年度小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 平成29年度小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 平成30・31年度小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 平成30年度北海道道徳教育推進会議資料 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 「特別の教科 道徳」の充実に向けて 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 「特別の教科 道徳」の評価について 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 新学習指導要領を踏まえた道徳キーワード 光村図書出版株式会社
- ・ 平成22年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成23年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成24年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成25年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成26年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成27年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成28年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成29年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成30年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会



滝川市いじめ根絶シンボルマーク最優秀作品

令和元年度 滝川市道徳教育推進事業 実践報告書

「自己と他者の心を見つめる道徳科の授業の在り方」 ～考え、議論する学習過程を通して～

発 行 令和2年3月
 発行者 滝川市教育委員会・滝川市道徳教育研究会議
 所在地 〒073-8686 滝川市大町1丁目2番15号
 滝川市教育委員会 教育総務課
 TEL 0125-28-8042 FAX 0125-24-1024